



但馬水産技術センターだより



海況情報（K2503号）

令和7年4月15日
兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

1. 日本海海況予報（2025年4月中旬～6月）

日本海における海況の予報をお知らせします。

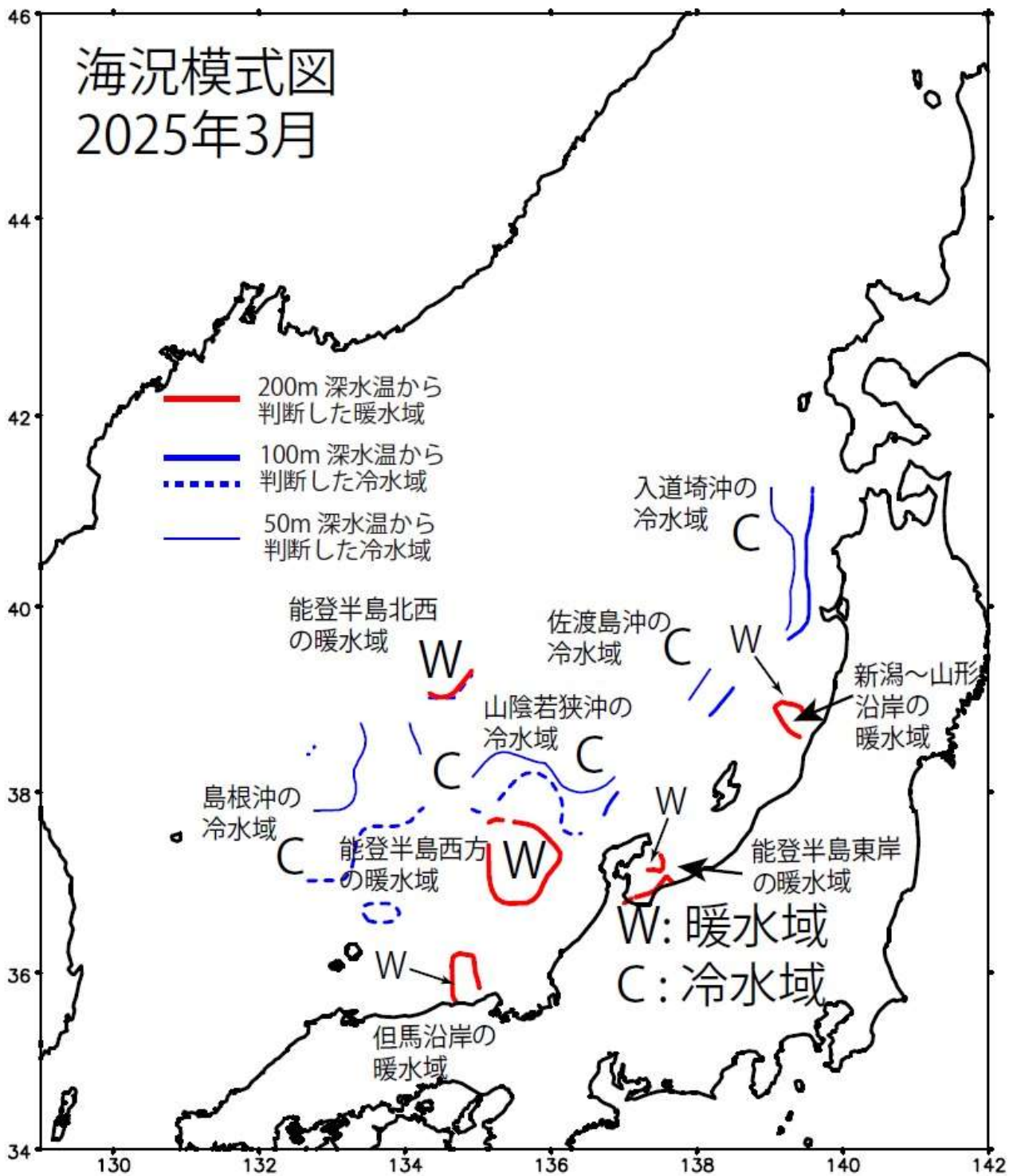
資料1

- ・2025年度第1回日本海海況予報（国立研究開発法人水産研究・開発機構 水産資源研究所）＊観測データの出所は但馬水産技術センターほか各府県等。

（コメント：4月中旬～6月の見通し一部抜粋、別紙の「2025年3月の海況模式図」参照）

- ・但馬沿岸の暖水域は停滞しつつ東へ拡大する。
- ・能登半島西方の暖水域はやや西進し、隠岐島北方に分布する。
- ・島根沖の冷水域の張り出しは、面積は「平年並み」で接岸状況は「やや離岸」で経過。
- ・山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、規模は「やや小さく」接岸状況は「やや離岸」で経過。
- ・対馬暖流域の表面水温は、「平年並み」で経過。
- ・対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部ともに「平年並み」で経過。

お問い合わせ先：兵庫県但馬水産技術センター（中村）TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684
email：nouringc_tajima@pref.hyogo.lg.jp
ホームページ：https://www.hyogo-suigi.jp/tajima/



2025年3月の海況模式図

出典：国立研究開発法人水産研究・開発機構
<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2025/index.html>

2025年度 第1回 日本海海況予報

1. 今後の見通し（2025年4月中旬～6月）

- (1) 能登半島北西の暖水域は南下する。但馬沿岸の暖水域は停滞しつつ東へ拡大する。能登半島西方の暖水域はやや西進し、隠岐島北方に分布する。能登半島東岸の暖水域は弱体化し、消滅する。新潟～山形県沿岸の暖水域は停滞する。
- (2) 島根沖の冷水域の張り出しは、面積は平年並みで、やや離岸で経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや小さくやや離岸で経過する。佐渡沖の冷水域の張り出しは、面積・接岸距離ともに平年並みで経過する。入道崎沖の冷水域の張り出しは、面積・接岸距離ともに平年並みで経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“平年並み”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、日本海西部及び北部ともに“平年並み”で経過する。

2. 経過（(1)は2024年11月～25年3月、(2)～(3)は2024年11月～25年2月、(4)は2024年11月）

- (1) 11月に能登半島北西に見られた暖水域は、12月以降にはデータが少なく確認出来ないが、3月には同じ海域に分布した。11月に能登半島の西方に見られた暖水域は、12月にデータが少なく確認が難しくやや東進した様子が見られたが、2・3月には再び11月と同じ位置に停滞する様子が確認できた。11月に男鹿半島沿岸に見られた暖水域は北上し、2月には津軽半島沿岸から津軽海峡に分布し流失した。2月に若狭湾西部に暖水域が出現し3月にはやや西進し但馬沿岸に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、11月は面積は平年並みでかなり接岸、12月は面積・接岸距離ともに平年並み、2月はデータが少なく確認出来ない。山陰・若狭沖の冷水域は、11月はかなり小さくやや接岸、12月やや小さくかなり離岸、2月は面積は平年並みでやや離岸。佐渡島沖の冷水域は、11月はやや小さくやや接岸、12・2月はやや小さくやや離岸。入道崎沖の冷水域は、11月はやや小さく接岸距離は平年並み、12月は面積・接岸距離ともに平年並み、2月は面積は平年並みでやや離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、11月は、山口～島根県、但馬～能登半島西岸、富山湾、山形県沿岸で“平年並み”～“やや高め”、男鹿半島周辺で“やや低め”以外は、“かなり高め”～“はなはだ高め”。12・2月は調査海域に限られるが、12月は、概ね“かなり低め”～“平年並み”、日本海中央部では“かなり高め”～“はなはだ高め”。2月は、青森県沿岸で“かなり高め”～“はなはだ高め”以外は“かなり低め”～“平年並み”。
- (4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、日本海西部で“かなり高め”、北部で“やや高め”。

3. 現況（2025年3月）

- (1) 暖水域は、能登半島北西、但馬沿岸、能登半島西方、能登半島東岸、新潟～山形沿岸に分布。
- (2) 島根沖の冷水域はやや小さくやや離岸。山陰・若狭沖の冷水域はやや小さく接岸距離は平年並み。佐渡沖の冷水域はやや小さく接岸距離は平年並み。入道崎沖の冷水域は面積・接岸距離ともに平年並み。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、島根～若狭湾西部沿岸で“かなり低め～やや低め”、若狭湾東部～能登半島西岸、新潟～山形沿岸、津軽半島西岸で“やや高め”～“かなり高め”以外はおおむね“平年並み”。
- (4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、日本海西部で“平年並み”、北部で“やや高め”。

（註）この海況予報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2022年3月より運用を開始した FRA-ROMS II システムを主に用いて実施し、気象庁による北陸地方の気温の3か月予報（4月～6月）も参考にした。引用符（“ ”）で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

- “はなはだ高め（低め）” : 22年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ（低さ）
- “かなり高め（低め）” : 7年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ（低さ）
- “やや高め（低め）” : 3年に1回の出現確率である1℃程度の高さ（低さ）
- “平年並み” : 2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温

出典：国立研究開発法人水産研究・開発機構

<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2025/index.html>